



きせき

秋草学園高等学校 卓球部通信
平成30年2月16日
第324号



説得力ある後藤さんの話①

――― 1. 2年生感激 ―――

大雪のため延期になっていた後藤さんの話を聞くことができました。以下が話の概要です。
★最初は高校で卓球をやる気が無かったが、先生からの誘いの電話で続けようと思った。★中3の12月頃卓球が死ぬほどいやで、バスに乗るたびに「死にてえ」と思った。★入学して強くなるためには先生に好かれることと考え①先生の前では一所懸命練習をやった(そのうち習慣になって先生がいなくてもやるようになった) ②昼寝の時間にみんな寝ているときにサーブ練習した ③先生に卓球の質問を多くした④卓球ノートに練習課題や練習計画など30分位時間をかけて先生に見せた④出来るだけ先生と話しするようにした(どうでもいいような話でも) ★中学の時は成績がよくなかったけど、卓球を秋草でやっていたらテストの成績が悪かったら卓球も弱くなってしまおうような気がして、勉強も一生懸命頑張るようになった。★卓球を頑張ろうと思えたころから、卓球ノートを沢山書くようになって、自分が練習しなければならないことをまとめたり、試合後のビデオを見直して得失点を書いたりして研究した。【続く】



2年次県ダブルスインハイ出場決定時後に

後藤先輩の話を聞いて

〇〇 〇〇〇

後藤先輩はノートに練習内容を沢山書いたり、先生に質問して自分がうまくなることを沢山まとめていたけれど、私はノートもあまり書かないし、先生にも質問したことがなくてうまくなるためのことをできないなって思いました。声も後藤先輩はすごく大きくてもっと大きな声を出して試合や応援を頑張っていきたいと思えます。後藤先輩は勉強も卓球も一生懸命やって私は授業を大切にしないで、勉強も出来ないから、今から両立できるよう勉強も一生懸命やりたいと思いました。私たち2年生は引退まであと半年しかなく弱くても声をだしたり、頭を使って試合をしたり強くなるためにできることをやって残りの半年間一所懸命やって引退した時に後藤先輩みたいにつらいことも楽しかったと言って終われるように頑張りたいと思えます。